

JR EAST CUP 2005 79th Kanto University League Soccer

< 第 1 1 節終了時点順位表 >

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	駒 澤 大 学	7	2	2	26	8	+18	23
2	筑 波 大 学	7	2	2	28	11	+17	23
3	法 政 大 学	6	0	5	21	10	+11	23
4	順 天 堂 大 学	4	4	3	17	16	+1	15
5	東 京 学 芸 大 学	5	6	0	16	17	-1	15
6	国 士 館 大 学	4	4	3	14	17	-3	15
7	中 央 大 学	4	5	2	19	20	-1	14
8	流 通 経 済 大 学	3	4	4	10	19	-9	13
9	東 京 農 業 大 学	3	4	4	10	20	-10	13
10	明 治 大 学	3	6	2	12	16	-4	11
11	垂 細 垂 大 学	2	6	3	9	16	-7	9
12	日 本 大 学	2	7	2	11	23	-12	8

国士館大学はリーグ戦後に勝ち点 - 7 とする

得点ランキング

9 ゴール	平山 相太(筑波大)
	市川 雅彦(法 大)
7 ゴール	宮崎大志郎(駒 大)
6 ゴール	赤嶺 真吾(駒 大)
5 ゴール	原 一樹(駒 大)
4 ゴール	藤本 淳吾(筑波大)
	他 7 名

アシストランキング

9 アシスト	藤本 淳吾(筑波大)
5 アシスト	高野 耕平(東学大)
4 アシスト	石川 高大(東農大)
3 アシスト	赤嶺 真吾(駒 大)
	小宮山 尊信(順 大)
	中村 英之(順 大)
	他 4 名

駒大内得点ランキング

7 ゴール	宮崎大志郎
6 ゴール	赤嶺真吾
5 ゴール	原 一樹
3 ゴール	鈴木亮平
2 ゴール	新川真之介
1 ゴール	巻 佑樹
	田谷高浩
	桑原 靖

駒大内アシストランキング

3 アシスト	赤嶺真吾
2 アシスト	菊地光将
	八角剛史
	原 一樹
	巻 佑樹
	田谷高浩
1 アシスト	筑城和人
	新川真之介

駒大 11 節終了時成績：7 勝 2 敗 2 分 得点 26 失点 8

1	1	3 - 0	明 大	宮崎、宮崎(菊地)、原(赤嶺)
2	5	1 - 2	法 大	赤嶺
3	5	2 - 2	順 大	赤嶺(筑城)、原(新川)
4	4	4 - 0	流経大	原、赤嶺(原)、新川(原)、原(八角)
5	4	3 - 0	東農大	新川(赤嶺)、原、赤嶺(田谷)
6	3	1 - 0	垂 大	巻
7	2	3 - 1	日 大	桑原(菊地)、宮崎、赤嶺(新川)
8	2	1 - 2	東学大	宮崎
9	2	4 - 0	中 大	田谷、鈴木亮(赤嶺)、鈴木亮、赤嶺(田谷)
10	2	0 - 0	筑波大	
11	1	4 - 1	国士大	宮崎、宮崎、宮崎、鈴木亮



3 節・順大戦 リードしていたが、試合終了間際に同点とされホイッスルとともにピッチに崩れ落ちた

しかし、中大戦は前節のショックを引きずることもなく、復帰した鈴木亮の 2 得点という活躍もあり 4 - 0 と勝利した。そして迎えた筑波大戦、勝たなければいけない試合」と巻が語ったように、試合開始から駒大が攻勢に試合を進める。だが、この試合でも駒大の決定力不足が出てしまった。筑波大の 5 倍の 20 本ものシュートを放つもネットを揺らすことはなく、終了のホイッスルが鳴り、前期でベストゲームを繰り広げるもこの時点で前期首位は不可能と思われた。前期最終節の国士大戦、宮崎のハットトリックと鈴木亮のゴールで快勝し、流経大に敗戦した筑波大を得失点差で上回ったことで駒大が首位に浮上することとなり、結果は前期を首位で折り返すこととなり、結果は

昨年以上のものを収めた。だが、選手たちが試合内容に手応えを掴んだ試合が少ないのも事実である。勝った試合でも、強い駒大のを見られた試合は少なかつた。守備陣は 11 節を終え 8 得点と安定している。また田谷や小原といったサイドのプレイヤーが充実したことで駒大得意のサイド攻撃は活性化されている。26 得点と結果が出ていないのにも関わらず、選手たちからは「決定力不足」という言葉が聞かれる。やはり秋田監督の言つとおり、選手たちは「聞えていない」のだから。最終節でも監督は同じ言葉を口にしている。しかし、結果が出ていることで課題が明白でない以上、選手の「気持ち」と言うしかないだろう。駒大の選手たちが真の「聞える選手」に成長したときが、リーグを制するとき、または「三冠」を達成するときであることは間違いないだろう。(川崎 篤彦)



9 節・中大戦 攻守のバランスが噛み合い 4 得点で快勝した。この試合がランチに入った八角の功績が大きかった



[上] 4 節・流経大戦 7 分の原のゴールを皮切りに 4 ゴールと完勝した
[右] 8 節・東学大戦 田谷を基点に、サイドから再三にわたり攻撃を仕掛けるが東学大の前にカウンターに屈した



11 節・国士大戦 80 分の鈴木亮のゴールと駒大の執念が前期首位という結果を呼び込んだ

チーム総合ランキング

11 節終了時で、駒大は失点 8 と最も少ない。やはり駒大の守備力の高さは今年も健在だ。得点も 11 チーム中 2 位と攻撃力も高く攻守のバランスは取れている。しかも、流れの中からの得点が多い。ということはチームの戦術が上手く回っている証拠だろう。しかし、セットプレーからの得点は宮崎の直接 F K が大部分を占めている。相手チームから守りを固められたときや均衡状態に陥った時にはセットプレーからの得点は欠かせない。今後はセットプレーのバリエーションを増やし、廣井、桑原の C B にも得点を期待したい。

守備陣の奮闘

リーグ序盤は 3 試合で 4 失点といまいち調子が上がらなかったが、その後は 3 試合連続完封と徐々にバランスが整ってきた。垂大戦で廣井が負傷退場してしまうアクシデントも、阿部がその穴を埋め、DFラインが崩れることはなかった。試合ごとに選手が入れ替わりはあるが、桑原が統率をはかり、コンビネーションにも問題のないことを証明している。

1 年生の沈黙

前期を首位で折り返し、問題がないように見える駒大だが、今年は 1 年生がピッチに立つことは少なく、リーグ戦に出場したのは安藤ただ一人。山下や島田など (P8 を参照) Jrリーグでは活躍する者は多いがベンチ入りもしていない。チームが研究されたとき、彼らの活躍は必要となる。今彼らが成長することで、さらに駒大のレベルが上がることは間違いない。



[右下] 10 節・筑波大戦 20 本ものシュートを放つが相手 GK の来栖にことごとく防がれてしまった

